

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 28 日現在

機関番号：14302

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23653245

研究課題名(和文) 東洋の伝統をいかした 生の技法 の学習と教育に関する比較研究 - 「食」を手始めに -

研究課題名(英文) A Comparative Study of Learning and Teaching the "Arts of Living" Employing East-Asian Traditions: Beginning with "Cuisine"

研究代表者

岡部 美香 (OKABE, Mika)

京都教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：80294776

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円、(間接経費) 750,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、人間的・社会的な生活を送るのに必要な実践知である 生の技法 を習得するための学習と教育についてその過程と構造を解明し、東洋の伝統をいかした学習論・教育論のフレームワークを創成することにある。文献講読による国際比較研究および日韓におけるフィールド調査研究を通して、次の3点が研究成果として導出された。東洋の伝統では、ことば・文字のみならず音律、色、形、空間構成など多様な教育メディアが駆使されている。それらは、先行世代の身体の動きと連動して初めて教育的機能を発揮する。それらは、後続世代の身体活動を規制する一方で、後続世代の思考と意味解釈の自由と自律を保証するという機能を果たす。

研究成果の概要(英文)：This study draws on the East-Asian tradition to create a theoretical framework about learning and teaching through elucidating structures and processes for learning and teaching for the acquisition of the "arts of living" -- the practical knowledge necessary for living a humane and social life. A comparative study of the ideas of occidental and oriental thoughts, and field research in Japan and South Korea derived the following three research outcomes. (1) In East-Asian traditions, a variety of educational media such as sound, colour, shape and spatial configuration etc. as well as words and characters are entirely utilised. (2) They exert their educational functions only in conjunction with the bodily movements of the preceding generation. (3) While constraining the bodily activities of successive generations, they function to ensure autonomy and freedom of thought and interpretation about the culture for successive generations.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：教育メディア 実践知 世代継承 東洋の伝統 歴史的教育人類学 教育人間学

1. 研究開始当初の背景

近年、グローバル化の進展により、教育の領域でも国民国家の枠を越えた交流やシステム構築が盛んになりつつある。とはいえ、東アジアにおける教育のグローバル化は、ともすればEUなど先行する西洋諸国のモデルの受容や模倣に傾きやすく、この傾向は、東アジア諸国の教育・研究にさまざまな葛藤をもたらしている。こうした現状を打開する策の一つとして、国内外の教育関連諸学会では、東洋の伝統的な文化が有する潜在的可能性を解明し、東洋の思想・フィールドから新たな教育理論・実践を打ち出し、世界に向けて発信することを提言している。

東洋の伝統的な思想のなかでは、個人における生の技法の習得が「自己修養」として重視されてきた。生の技法とは、日常生活に息づいて臨機応変に発揮されるふるまいのことを意味する。ふるまいは、元来、「人前でものごとを行う動作・態度」と「饗応・もてなし・接待」という二重の意味をもっている。したがって、生の技法とは、人間が社会のなかで生きるための実践知であるとともに、感性・身体と連動した心身知であり、かつ周囲の状況に配慮し他者と共に生きようとする共生知でもある。しかしながら、この「自己修養」としての生の技法の習得は、19世紀以降の近代化された学校教育と内容的・方法的にうまく接続されないまま、今日に至っている。

以上のことから、実践知・心身知・共生知としての生の技法の習得を基軸とする学習論・教育論を現代的状況に応じてあらためて構想することがいま求められているといえる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、人間的・社会的な生活を送るのに必要な実践知である生の技法を習得するための学習と教育について、その過程と構造を解明し、東洋の伝統をいかした学習論・教育論のフレームワークを創成することにある。

3. 研究の方法

本研究では、ベルリン自由大学のクリストフ・ヴルフが提唱する歴史的教育人間学的手法に倣い、東西の比較思想研究とフィールド調査研究(参与観察・インタビュー調査)とを組み合わせた研究方法を用いる。

また本研究では、生の技法のなかでも「食」に関するふるまいを対象とする。さらに、「食」のなかでもとりわけ「葬儀・法要」における「食」に焦点づける。葬儀・法要におけるふるまいは、共同体内部の日常生活にかかわると同時に、共同体を超えた生命のあり様ともかかわるふるまいであり、また、目の前にいる人に対するのと同時に、もういない人に対するふるまいでもある。こうしたふるまいから、日常生活において当たり前のよ

うに作用している生の技法を逆照射することができると思われる。

4. 研究成果

(1)東西の比較思想研究

平成23年度から平成24年度にかけて、東西の比較思想研究を中心に研究を進めた。葬儀・法要における「食」に関する日本の民俗学・歴史学の先行研究(主として柳田國男、網野善彦、新谷尚紀、関沢まゆみ、赤坂憲雄らの著作・論文)と韓国の先行研究、そしてドイツを中心とする西洋の先行研究(ノルベルト・エリアスの文明化の過程に関する研究、アーヴィング・ゴッフマンの儀礼に関する研究、クリストフ・ヴルフのパフォーマンス研究およびクリスマスなどの儀礼研究、そのほか文化人類学の先行研究)とを突き合わせ、比較検討した。日本の先行研究の考察については研究代表者の岡部が、西洋の先行研究の考察については、研究分担者の鈴木が担当した。また、韓国の先行研究の考察については、高橋舞氏(立教大学・研究員)と盧珠妍氏(奈良女子大学・教育システム研究開発センター・助教)の助力を得るとともに、安京植氏(釜山大学)から情報を提供していただいた。

この比較検討を通して、日本と韓国が近代化の影響によって世代間における生の技法の学習と教育(以下、世代継承)に大きな困難を抱えていること、そのために自分や近い人の死を受容することや受容した上で後に残された人々(生者)がふたたび安定した日常生活を取り戻すことにも大きな困難が生じていることが明らかとなった。

(2)フィールド調査研究

平成24年度から平成25年度にかけて、(1)の思想研究に基づいて導出された理論的枠組みおよび諸概念を援用しつつ、フィールド調査研究を実施した。韓国では、朴宰永氏(釜山大学)の協力を得ながら、旧正月に先祖を迎える儀礼(家庭におけるチャレと仏教寺院におけるチェサ)に関して参与観察とインタビュー調査を行った。また、釜山市内の近代的な病院でもインタビュー調査を行った(韓国では病院に葬儀場がある)。日本では、兵庫県豊岡市で、葬儀・法要の儀礼に関するインタビュー調査を実施した。

調査結果に関しては、岡部・鈴木のほかに、平成24年度より研究分担者となった池田がナラティブ研究の視覚から、森(高松)がパフォーマンス研究の視覚から分析・考察した。

これらのフィールド調査から、日本でも韓国でも、近年、労働形態や生活様式の近代化によって葬儀・法要にかかわる儀礼が効率化・合理化されつつある、すなわち伝統的なものとして継承されてきた生の技法が省略化・簡略化されつつあることが明らかとなった。こうした変化は、伝統を継承するか否か、伝統の何を残し何を改めるのかをめぐる世代間の議論を呼び起こしており、時にそれ

が深刻な葛藤や相克、あるいは妥協や諦念へと至ることもある。

こうした状況において問われるべきは、世代間のあるべき関係ではなく、生の技法の世代継承を可能にする教育メディアであることが、調査結果から導出された。日本においても韓国においても、生の技法の世代継承においては文字によらない教育メディアが多用されている。文字によらない教育メディアとは、例えば音(声)、色、形、所作、におい、味、空間構成などである。これらの教育メディアの特徴は、一つの教育メディアがそれぞれの土地の風土や人の暮らしや歴史にそのような物語とともに解釈され、それによって、一つの教育メディアが指し示す意味内容が同時に多数存在し、そうした多数性がある程度ゆるやかに許容されている、という点である。これは、学校教育に代表されるようないわゆる近代教育の枠組み、すなわち一つの概念に対して一つの意味が相当し、その概念と意味の組み合わせを「正確に」伝達することが重視されるという枠組みとは対照的である。ここに、西洋近代の教育思想を基盤として発展してきた日本の近代教育の枠組みを超える可能性が見出されると思われる。

(3)研究成果のまとめ

(1)の比較思想研究と(2)のフィールド調査研究を通し、主な研究成果として次の3点が導き出された。

生の技法の世代継承に際して、東洋の伝統においては、ことば・文字のみならず、それ以外のモノ、例えば音律、装飾品の色や形、食物、所作、空間構成などといった多様な教育メディアが駆使されている。

ことば・文字以外のモノである教育メディアは、モノだけでは機能せず、先行世代の身体の動きと連動しながら後続世代に提示されて初めて教育的機能を発揮する。

このように提示される教育メディアは、先行世代にとっては、自分の意図を後続世代に伝達し、後続世代の身体の動きを規制するという機能を果たす。他方、後続世代に対しては、言語による思考への規制をあまり伴わないことによって、文化内容の意味解釈の自由と自律を保証するという機能を果たす。

「先行世代による規制」と「後続世代における自由と自律」がズレを引き起こすという教育メディアの構造原理が、ことば・文字以外の教育メディアそれぞれにおいて実際にいかに具体的に機能しているのかを分析することが今後の課題であるといえる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

岡部美香・高橋舞・盧珠妍「教育関係論・学び論から世代継承のメディア論へ 日韓の教育思想史研究は世代継承の実践知をどのように論じ、発信してきたか」
「教育思想史学会編『近代教育フォーラム』第23号、2014年10月発行予定、査読無。

森(高松)みどり「ゴッフマンのドラマ トゥルギーから見たチャレのパフォーマンス:ドキュメンタリー方法によるビデオ分析」
韓国教育思想研究会編 *The Journal of Korean Educational Idea* 28-1、2014年、321-338、査読有。

SUZUKI, Shoko, *Wisdom on the Pursuit of Happiness in Daily Life: Christmas Celebration in the German Family, Paragrana -- Internationale Zeitschrift fuer Historische Anthropologie: Well-Being -- Emotions, Rituals and Performances in Japan*, Band22, Heft1, 2013, 235-248, 査読有。

岡部美香・高橋舞・韓炫精「『食』の技法とその継承に関する日韓比較研究(1)

葬儀における『食』の技法を手がかりに」
「京都教育大学附属教育実践センター機構教育支援センター編『京都教育大学教育実践研究紀要』第13号、2013年、291-300、査読有。

池田華子「関係を生きる応答性 ヴェイユの『注意』に見る教育の臨床知」
日本ホリスティック教育協会『ホリスティック教育研究』第16号、2013年、17-29、査読有。

[学会発表](計8件)

岡部美香「世代継承の歴史的教育人類学が教育思想研究に拓く可能性」
韓国教育思想研究会 2014年年度大会(招待講演) 2014年2月25日、韓国・釜山大学。

岡部美香・高橋舞・安京植・朴宰永・森(高松)みどり「教育関係論・学び論から世代継承のメディア論へ 日韓の教育思想史研究は世代継承の実践知をどのように論じ、発信してきたか」
教育思想史学会、2013年9月15日、慶應義塾大学。

岡部美香「教育人間学とメディア論の一つの邂逅 日本における歴史的教育人類学の構想に向けて」
韓国教育思想研究会 2013年夏季学術大会(招待講演) 2013年8月13日、韓国・グチャン・ハンマウン図書館。

森(高松)みどり「韓国にみられるチャ

レ儀礼のパフォーマンス：ゴッフマンによるドラマトゥルギーの視点から」韓国教育思想研究会 2013 年夏季学術大会(招待講演) 2013 年 8 月 13 日、韓国・グチャン・ハンマウン図書館。

鈴木晶子, Die Paedagogischen Aufgaben im Post-Fukushima-Zeitalter und 'Panbiontologie', Internationale Konferenz der Koreanisch-Deutschen Gesellschaft fuer die Erziehungswissenschaft (招待講演), 2013 年 5 月 25 日、韓国・仁荷大学。

岡部美香・森(高松)みどり・池田華子、A Comparative Study on Arts of 'Eating' and their Heritage in Korean and Japanese Funerals: Significance and Challenges of Methodology, 卓越した大学院拠点形成支援国際フォーラム「実践知と教育研究の未来」, 2013 年 3 月 21 日、京都大学。

岡部美香・高橋舞・韓炫精「葬儀における『食』の技法とその継承に関する日韓比較研究 その目的と中間的成果」, 卓越した大学院拠点形成支援国際フォーラム「実践知と教育研究の未来」, 2013 年 3 月 20 日、京都大学。

岡部美香、Education of 'Arts of Living' to Reinvigorate East Asian Tradition, The 6th International Symposium on Teacher Education in East Asian Countries (招待講演) 2011 年 6 月 11 日、韓国・ソウル教育大学。

〔図書〕(計 2 件)

鈴木晶子・クリストフ・ヴルフ『幸福の人類学 クリスマスのドイツ・正月の日本』、ナカニシヤ出版、2013 年、195 頁。

鈴木晶子『教育文化論特論』、放送大学教育振興会、2011 年、235 頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡部 美香 (OKABE, Mika)

京都教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：8 0 2 9 4 7 7 6

(2) 研究分担者

鈴木 晶子 (SUZUKI, Shoko)

京都大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：1 0 2 3 1 3 7 5

池田 華子 (IKEDA, Hanako)

天理大学・人間学部・講師

研究者番号：2 0 6 1 0 1 7 4

(2012 年 11 月 1 日より研究分担者)

森 みどり (MORI, Midori)

(高松 みどり)(TAKAMATSU, Midori)

滋賀短期大学・幼児保育教育学科・准教授

研究者番号：2 0 6 2 6 4 7 8

(2012 年 11 月 1 日より研究分担者)